

放湯息子

ドビュッシー

ビゼー 歌劇

ジヤミレ

Georges Bizet

Opéra "DJAMELEH"

Opéra-Comique en 1 Acte

Libretto de Louis Gallet

Claude Debussy
"L'ENFANT PRODIGUE"
Scène lyrique d'un texte
d'Édouard Guinand



リア(母):浜田理恵
Lia : Rie Hamada



指揮:佐藤正浩
Masahiro Sato, conductor



ジヤミレ(女奴隸):島木弥生
Djamelé(esclave) : Yaeji Iriki



シメオン(父):
Siméon : Vitaly Yushmanov



アザエル(娘露息子):
Azael : Naoki Miyasato



アルーン(王子):樋口達也
Haroun(prince) : Tatsuya Higuchi



スプレンディカーン(僕用人):
Splendiano(serviteur du prince) : Akihiro Oya

東京芸術劇場コンサートオペラ vol.7 演奏会形式（日本語字幕付原語上演）

Tokyo Metropolitan Theatre Concert Opera vol.7 (Sung in French with Japanese subtitle)

指揮:佐藤正浩
Masahiro Sato, conductor

管弦楽:ザ・オペラ・バンド
The Opera Band

コーラス:国立音楽大学合唱団
Kunitachi College of Music Chorus

2019 10/26 | 土 | 14:00開演 (ロビー開場13:00) 東京芸術劇場コンサートホール

Sat.26.Oct 2019, 14:00 Tokyo Metropolitan Theatre Concert Hall

S ¥6,000 A ¥5,000 B ¥4,000 C ¥3,000 D ¥1,500

2019/6/1(土)一般発売

東京芸術劇場ボックスオフィス

0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00)

<http://www.geigeki.jp/t/>

チケットぴあ

イープラス

ローソンチケット

0570-02-9999 [24時間・音声自動応答 Pコード: 148-566]

<http://eplus.jp/>

0570-000-407 [オペレーター対応10:00~20:00]

0570-084-003 [音声自動応答 Lコード: 31679]

東京文化会館チケットサービス

03-5685-0650 [窓口 10:00~18:00]

*高校生以下割引 1,000円(枚数限定、要証明書、東京芸術劇場ボックスオフィスのみ取扱い)

*障害をお持ちの方は、割引料金でご鑑賞いただけます。詳細は東京芸術劇場ボックスオフィスまでお問い合わせください。(要事前予約)

助成:



文化庁芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)



独立行政法人日本芸術文化振興会

文化でつながる。未来につながる。

Tokyo Tokyo

FESTIVAL

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

※未就学児の入場はお断りいたします。

※やむを得ぬ理由により出演者等変更の可能性がございますのでご了承ください。

※座席により字幕が見づらい場合が一部ございますがご了承ください。

※開演時間に遅れますが、長時間入場をお待ちいただいたり、自席にご案内できない場合がございます。

公益財団法人朝日新聞文化財団

若きドビュッシーの天才的な閃きと魅力的なアリアや親しみやすい美しいメロディーに溢れた、ローマ大賞受賞作『放蕩息子』。実演を聴いたブームスが「音楽そのものが全てにおいて素晴らしい作品」と激賞し、早世の天才ビゼーが『カルメン』、『アルルの女』などの傑作を残す晩年期に作曲した知られざる名曲、歌劇『ジャミレ』。芸劇コンサートオペラシリーズで2017年絶賛を博した『真珠とり』の続編として待望の公演決定！

ドビュッシー

放蕩息子

ドビュッシー/カンタータ《放蕩息子》－あらすじ

舞台は古代の中東。行方知れずの息子アザエルの帰りを母アリアは空しく待ち続ける。夫のシメオンが妻をなだめる。行列がゆき過ぎると入れ替わりに、ついに帰郷したアザエルが現れて、思い出の石のベンチに座り、「安らぎの故郷を見ながらも、自分はここで死ぬ」と絶望の心を語る。そこにアリアがやってくるが、初めのうちは親子であると気づかない。しかし、ついに互いを認め、喜びの二重唱を歌う。そこにシメオンが村人を連れて登場。彼もアザエルの帰還を喜び、「永遠なる神、エホバを讃えて歌おう」と呼びかけ、全員で感謝の祈りを歌う。



浜田理恵【リア(母)】

東京芸術大学大学院修士課程終了(中村浩子氏に師事)後、パリに留学、ガルシアンズ氏に声楽を、アイト氏にフランス歌曲を学ぶ。第19回パリ国際声楽コンクールオペラ部門第一位他受賞。フランスを中心に数多くのオペラに出演。ブーレーズ率いるアンサンブル・アンテルコンタンポランとザルツブルク音楽祭を含むヨーロッパツアーも行う。日本では、新国立劇場オペラ等にしばしば招かれると共にN響を始めとする各地のオーケストラとの共演も多い。1997年出光音楽賞受賞。現在、東京藝術大学准教授、御茶ノ水女子大学非常勤講師、フランス在住。

ビゼー/歌劇

ジャミレ

ビゼー/歌劇《ジャミレ》－あらすじ

エジプトのカイロ。王子アルーンは、「愛に縛られず生きたい」と強く思うため、毎月、新しい女奴隸を雇うと決めている。そのため、今いる奴隸ジャミレも次の女性が来ると宮殿を去らねばならない。アルーンの従者でかつての教導者スプレンディアーノは、「自分がジャミレの次の保護者になります」と持ち掛けるが、ジャミレの側はアルーンを心から愛してしまっており、王子に内緒でスプレンディアーノを説き伏せ、彼の援けを得る。そこでジャミレは「新しい女奴隸」に扮してアルーンのもとに再び現れ、王子の心を再び掴んだうえで永遠の愛を誓いあう。



鳥木弥生【ジャミレ(女奴隸)】

東欧各地でのリサイタルで活動開始。数々の国際コンクールに入賞し、フィレンツェ市立歌劇場公演「ジャンニ・スキッキ」でオペラデビュー。ビゼー「ジャミレ」(クレルモン=フェラン)、「蝶々夫人」(バルセロナ他)等、各地で好評を得る。「カルメン」、「カルメル会修道女の対話」など、オペラに加え、「第九」、「フォーレ」「ペラスとメリザンド」など、コンサート、オラトリオでも幅広く活躍。2015年「岩城宏之音楽賞」受賞。



佐藤正浩【指揮】

東京芸術大学、ジュリアード音楽院を経てサンフランシスコ・オペラのコーチに就任。また、ケント・ナガノ氏の推薦でリヨン国立歌劇場の首席コレベティールとなり活躍する。2000年から指揮活動を開始、イギリス・ダーティントンでモーツアルト「イドメネオ」、R.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」を指揮。新国立劇場でグルック「オルフェオとエウリディーチェ」、ブッチーニ「トスカ」、東京オペラプロデュース「放蕩者のなりゆき」、ひろしまオペラルネッサンス

「カルメル会修道女の対話」、三善晃「遠い帆」等を指揮し注目を集め。東京芸術劇場コンサートオペラシリーズでは『ドン・カルロス』(パリ初演版日本初演)、『サムソンとデリラ』、『真珠とり』を指揮し、大きな成功を収めた。オペラ彩主催、ヴェルディ「ナブッコ」で三菱UFJ信託音楽賞、会津でのオペラ「白虎」(初演)で佐川吉男音楽賞を受賞。



ザ・オペラ・バンド【管弦楽】

2005年、東京オペラグループ「フィガロの結婚」上演時に、佐藤正浩(指揮)と今野京(コントラバス奏者)により設立されたOrchestre "Les Champs-Lyrics" の名称で活動してきたが、2015年、10周年を機に「ザ・オペラ・バンド」に変更。オーケストラ・ピットに入り演奏すること目的とし、首都圏プロオーケストラ演奏家を中心には組成される。これまでに、「フィガロの結婚」「コシ・ファン・トゥッテ」「蝶々夫人」「ナブッコ」「オテッロ」「仮面舞踏会」「マクベス」「マリア・ストゥアルダ」「ゼッキンゲンのトランペット吹き」「白虎」(加藤昌則)、2014年東京芸術劇場「ドン・カルロス(仮語版日本初演)」、2016年『サムソンとデリラ』、2018年『真珠とり』などに出演し、精緻なアンサンブルと華麗なドラマを聴かせると好評を得ている。「ナブッコ」、「マリア・ストゥアルダ」で三菱UFJ信託音楽賞を、オペラ「白虎」で佐川吉男賞を受賞した。

チケット料金/座席表

S ¥6,000	A ¥5,000
B ¥4,000	C ¥3,000
D ¥1,500	

一般発売 2019年6月1日(土)

芸術先行(WEB先着)5月25日(土)10:00～

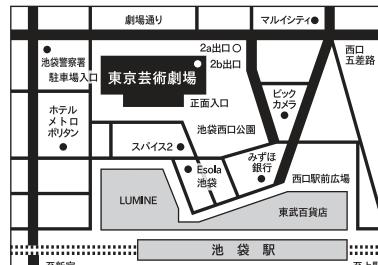
※未就学児の入場はお断りいたします。※やむを得ぬ理由により出演者等変更の可能性がございますのでご了承ください。※座席により字幕が見づらい場合が一部ございますがご了承ください。



○託児サービスあり 0120-415-306 (事前予約制)
HITOWAキャリアサポート株式会社 わらべうた

19世紀のフランスは「地方色」の天下。それは、革命前の古典悲劇が「どの時代の、どこのドラマも当代の宫廷衣裳で演ったことへの反動である。絶対王政下では「人間の心の動きは、いつの世も、場所を問わず同じ」と考えた。しかし、近代の市民層は「観たこともない風景を、歌劇場で眺めてみたい」と感じるようになった。それゆえ、外交に重用されるオペラ座でも家族で楽しむコミック座でも、地方色満載のオペラが愛されたのだ。そこに出現したのが天才ビゼー。異国情緒を大得意とした彼は、『カルメン』のスペインのみならずロシアもスリリングなコントランドも音で造型したが、小品の『ジャミレ』も、カイロの王子と女奴隸の愛をテーマに、とぼけた明るさとしなやかな官能性を帯びた見事なオペラに。今回は、聖書に由来するドビュッシーのカンタータ『放蕩息子』と並べて上演するという。中世エジプトと古代ユダヤの物語を、ひときわ潤いあるメロディで堪能してみよう。

岸 純信 (オペラ研究家)



東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

東京芸術劇場: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 (電話)03-5391-2111(代表)
アクセス: JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線「池袋駅」西口徒歩2分(池袋駅地下通路2b出口と直結)